

2022 11/22

No.2175

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



サッカーJ1リーグの横浜F・マリノスは5日、最終節で神戸を下し、クラブ創設30周年の節目を、3年ぶり5度目のリーグ制覇で飾った。



視点点描 3

インバウンドの視点を

講演録 4

「直近の台湾情勢及び台湾と日本の絆」

台北駐日経済文化代表処横浜分処処長

張淑玲

社会 8

旧統一教会「解散」のハードル

宗教法人と宗教団体の区別を

暮らし2022 12

サイバー攻撃 患者データを「人質」

神奈川景気データファイル 14

事務局だより

◇2022年12月定例講演会
＝シンポジウム・交流会

12月9日(金)

ロイヤルホールヨコハマ(横浜
市中区山下町90)

▽シンポジウム

午前11時～午後0時30分、3階
「セレナーデの間」

パネリストは共同通信社の杉
田雄心・政治部長、春木和弘・
経済部長、有田司・外信部長。
コーディネーターは神奈川新
聞社の鈴木達也・論説主幹。
演題は「2023年の動向を読む」

▽交流会

午後0時40分～1時40分、3階
「シンフォニーの間」

◇2023年1月の講演会

1月12日(木)午後3時00分～
4時30分

関東学院大学関内キャンパス
2階「テンネー記念ホール」(横
浜市中区万代町1丁目)

講師：関東学院理事長

規矩 大義氏

内容：関東学院大学の関内キャン
パスについての講演後、同
キャンパスの見学会を予定し
ています

※新型コロナウイルスの感染拡大の状
況によって中止する場合があります。

視点 点描



インバウンドの視点を

カジノを含む統合型リゾート施設（ＩＲ）の候補予定地だった、横浜（ＩＲ）の候補予定地だった、横浜

10月10日の神奈川新聞18面で紹介した。それによると――

で、再開発に向けた新たな事業計画づくりが進んでいる。

（Ａ案）グローバル企業や大学などであるキャンパス型オフィスを中心に、中長期型滞在施設、ホール・シアターなど。

市は昨年12月から今年6月にかけて、市民意見と事業者提案を募集。提案は10件あった。このうち、イメージ図や開発コンセプトなどが公表された5件の事業者提案を、

（Ｂ案）国際展示場やコンサート・イベント会場、SDGs（持続可能な開発目標）・水素エネルギー施設、鮮食料品市場など。

（Ｃ案）スポーツやコンサートなどに対応するマルチアリーナやホテル、客船ターミナル、歩行者デッキなど。

（Ｄ案）28万平方メートルの緑空間のほか、水素発電・浄化システムや滞在・研修施設、運動・健康施設など。

（Ｅ案）海上一体型半屋外シアター、全天候型プールなどのエンターテインメント施設や文化芸術施設、研究施設など。

新型コロナウイルス禍に円安、資源高など経済情勢が不透明な中で、公表された5件だけでもこれだけ多種多様な提案が寄せられたのは、事業者が約47分の面積を持つ山下ふ頭の再開発に大きな可能性を感じているからだろう。横浜経済の起爆剤となる事業計画が策定されることを期待したい。

一方で、コロナ禍前、大さん橋に着岸したクルーズ船の乗客は大型バスで東京・銀座や箱根の温泉地へ向

かっていた。素通りするインバウンド（訪日外国人客）をどう横浜に引きつけるかが大きな課題だった。国内の、海外の、どこかにすでにあるような施設をもう一つ、山下ふ頭にもつくったとして、果たして横浜のインバウンド集客につながるだろうか。

インバウンドが「訪日前に期待していたこと」は①日本食を食べる②ショッピング③自然・景勝地観光（観光庁・訪日外国人の消費動向2020年1―3月期報告書）。

今後の事業計画策定では、インバウンドの視点と独創性をもっと重視してもいいのではないか。

まだ事業計画以前の段階だ。陸側から見ると未来を感じさせる先進環境都市だが海側から見ると天守閣に城下町の街並みで、そこにクルーズ船が着岸する。そんな破天荒な提案があっても良かった。

（神奈川新聞社統合編集局次長

兼経済部長・吉田 勝行）